

京都文教大生による宇治商工会議所会員企業・団体紹介〔第18回〕 ～社会人0年生の私たちが見つけた企業と地域の魅力～

2023年 **8**

地域連携学生プロジェクト **KASANEO × SAIJO**

想いを輝かせる 世界に一つだけのジュエリー

ファッションを通して多世代交流を図る「KASANEO」が、オーダーメイドジュエリー専門店「SAIJO」の森 拓郎さんにお話を伺いました。

【“喜んでもらいたい”が繋がる今】

ジュエリー職人を目指すきっかけは、高校生の時に見たドラマの1シーンでした。主人公がボルトで作った指輪をヒロインにプレゼントし、ブランド品でもない指輪を嬉しそうに受け取るシーンです。子どもの頃から手先が器用で、作ったプラモデルを両親や友達に見せると「上手にできたね」と褒めてもらっても「ありがとう」と喜んでくれることはありませんでした。森さんはこのシーンを見て、技術だけでなく相手が喜ぶものを作れる人になりたいと思いました。専門学校に進み、大手のジュエリーブランドに就職し生産に携わりますが、お客さんの顔が見えない現場に満足できず、職人のものにと弟子入り。技術を磨き、2017年に「SAIJO」を開きました。

屋号である「SAIJO」は、母親の旧姓「西條」が由来で、息子がおらず途絶えてしまう名前を少しでも残したいという家族の想いを受けたものなのです。

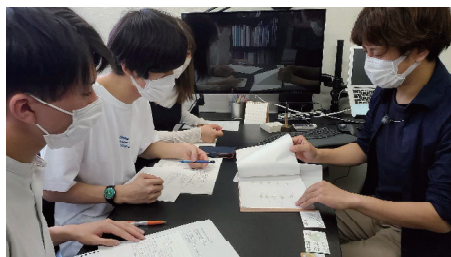
【運命を変えた“賞”との出会い】

森さんは、2021年に「第31回第一級技能グランプリ 貴金属装身具」にて優勝しました。各部門の職人が、緻密な技術を競い日本一を目指すもので、限られた時間内に課題として出されたものと同じものをいかに精工に作るかを競います。課題は、大会の3ヶ月前に発表となり、その間、森さんは休むことなく課題と向き合いました。大会当日は、緊張で手が震えていたと言いますが、見事優勝。更に28職種ある優勝者の中から4人のみに贈られる「内閣総理大臣賞」にも選ばれました。「受賞した時は凄くうれしかったですね。“日本一”という言葉にプレッシャーも感じますが、賞を取ったことでお客様に信頼してもらえて嬉しい」と、笑顔で話してくれました。

【オーダーメイドにこだわる理由】

完全オーダーメイドを採用している理由には自己満足になるのではなくあくまでお客様の思い・希望をそのままに形にしたいという意向があるからです。独立する前の森さんは、幼馴染の結婚記念に、自らが製作した指輪を贈りました。そのときに友人から言われた「一生の宝物をありがとう」との言葉は、今でも忘れられないものとして残っています。森さんのジュエリー作りは、まずデザインを起すため依頼者から人柄や趣味といったありとあらゆる情報を収集することから始まります。この情報を基にジュエリーを製作していき、そこに職人ならではの工夫を加えて完成させます。

ある時、プロポーズを考える男性が来店しました。森さんは婚約指輪を渡す相手の話を聞き取り、彼女がアイドルグループの「=LOVE」のファンであることから、指輪に「=」のデザインを入れて作り上げたと言います。このように、フルオーダーだからこそ、相手が求められることを叶えられ唯一無二のジュエリーを届けることができるのです。そしてそれは、お客様の笑顔につながり、それを見ることで、森さん自身も嬉しい気持ちになるのです。



【今回の取材先】

SAIJO



2017年設立。国家一級貴金属装身具技能士の森 拓郎さんによるフルオーダーメイドジュエリー専門店です。JR宇治駅近くに工房を構え、お客様一人ひとりのストーリーや好みに寄り添い一点物のジュエリー制作を行っています。また、自らが講師を務める彫金スクールも開いており、初心者からプロ志向の方まで幅広い方が通われています。

【今回の取材担当】

地域連携学生プロジェクト
KASANEO

2018年設立。高齢者から着なくなった衣服を譲り受け、学生の私物とコーディネートし、ファッションショーや雑誌で紹介するなど、イベントや広報物を介してファッションでつなぐ多世代交流を目指している。



↑ 作業風景も見せていただきました



今回取材、記事作成を担当した学生のみなさん。

右から寺田 あゆみさん、
中村 廉さん、藤原 結真さん
(ともに総合社会学部2回生)